

ごとう通信

第156号

平成25年12月1日

予想通りですがあつという間に年末になってしまいました。暑い期間が長かったので夏から冬、そして年末！と目まぐるしかったですね。

さて、この十二月一日でふれあい歯科ごとう開業丸十年でした。これもまた予想通りですがあつという間でした。本当に地道にやり続けているだけなのですが、皆様の応援もあり、ここまで来ました。まあ、二十年目の日が来たとしたら「あつという間だったなあ」と思うのでしょうか。

も一つ、十二月一日は僕の誕生日でもあります。年男で迎える誕生日……こちらは何の感想もありませんでした。単なる誕生日。

年末ですから今年の反省も。

まあ、時代のニーズと言われればかっこいいのですが、今年は本当に講演会などが多くなつてしまいました。それだけだったら喜ばしいのですが、ふれあい歯科に受診しておられる皆さんには多くのご迷惑をおかけしてしまいました。今、来年秋の講演会の依頼などが来ている最中ですが、来年は日程を慎重に選び、皆さんにご迷惑をおかけしないように考えています。さ、来年も良い年にしていきたいと思います。ようね！

抗生物質！

先日、一般図書の「99.9%が誤用の抗生物質」（岩田健太郎著・光文社新

書）を読んでみました。医師ほどでないにしても抗生物質を処方している身としては大変興味深いものでした。医師の教育は分かりませんが、歯科医師教育の中で薬の話は「抜歯のときはこんな薬を出しましょう」「こんな炎症があったらこんな薬です」という感じですね。ですから、炎症が予想される処置をしたときは薬を出しますというレベルです。今回、改めて処方の意味を考えなければならぬなあと思いました。

この本に出てきた話題で、一番皆さんにも身近で分かりやすいものとしては「風邪の時に抗生物質を出すのは良いことか悪いことか」でしょう。僕の理解としては、風邪はウイルス感染なので細菌感染を予防する抗

